

OES005-P03

会場:コンベンションホール

時間: 5月23日17:15-18:45

11年続けてきた子ども向けジオツアー「地震火山こどもサマースクール」

Geo-Tour "the Children's Summer School on Earthquake and Volcano"

中川 和之^{1*}

Kazuyuki Nakagawa^{1*}

¹時事通信防災リスクマネジメントweb編集長

¹JJIPress

日本地震学会と日本火山学会は、1999年から「地震火山こどもサマースクール」を毎夏、開催し続けている。阪神淡路大震災をきっかけに、地球科学の最先端を知る学会の専門家が、地震や火山災害の本質を知るものとして、研究だけに閉じこもっているのではなく次世代に直接伝える取り組みだ。

災害の怖さを強調する「脅しの防災教育」や、対策のノウハウだけを伝える訓練の限界を訴え、災害をもたらす地震や火山の仕組みとともに、暮らしやすい盆地やわき水、峠道、なだらかな斜面に広がる肥沃な大地など、地震や火山が人間生活にもたらしている恵みの部分も伝え、この日本列島に暮らす当事者として、納得して防災に取り組む次世代を育てたいと願って、北海道から九州の各地で続け、延べ436人の子どもたちとともに、地震や火山の風景を観察し、身体で感じる実験を行い、好奇心を引き出すなぞかけをしながら背景知識を伝えてきた。目指す考え方は、ジオと向き合って生きていく次世代を育てることであり、やってきたことは子どもたち向けのジオツアー開発の取り組みでもある。

開催地には、既に世界ジオパークになっている洞爺湖有珠山では2000年に実施しているほか、日本ジオパークネットワークの準会員やオブザーバーの霧島(2005年)、箱根(2007年)で実施し、2010年には日本ジオパークである室戸で開催を計画している。

自然の中にある地震や火山の風景の再発見、一人一人が自分の手を使って行う実験、専門家と子どもたちの双方向の質疑から得られた解説手法などは、10年を超えて伝える手法が確立されてきている。小学校高学年から高校生までを対象に実施しているが、かなり高度な内容に対しても、小学生でも体感・納得し、高校生も深い理解を得られる。これらは、国際学会での評価も得られている。学会の社会貢献事業として、今後も実施を計画しており、ジオパークを展開していく中で、役割を果たせると考えている。

キーワード:ジオパーク,ジオツアー,防災教育,自然の恵み,学会

Keywords: geopark, geotour, education, blessing, scientist